



今年度の成果と課題

今年度の成果と課題

今年度も、部会ごとに「授業改善・確かな学力の向上」をそれぞれ大きな柱として研修を行った。特に「小中合同部会」においては、中学校区ごとにそれぞれ特色ある部会を設け、小中連携を図りながら研修を進めることができた。また、南部小学校、醍醐小学校、三泉小学校の公開授業研究会を通して、教育実践の向上に生かせる成果を得ることができた。

《今年度の成果と思われること》

- 1 公開授業研においては、南部小学校では『自らの「できた」「わかった」をつないで学び続ける子どもの育成』、醍醐小学校では『関わりを大事にし、自ら学びを創る子どもの育成』、三泉小学校では『自ら学びを創る子どもの育成～自己調整力を育む授業づくり～』をそれぞれ研究主題とし、2年目として進められてきた研究や授業実践を通して学ぶことができた。個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指し、一人一台タブレットPC端末を活用した授業実践や自己調整力など、付けたい資質・能力を明確にした授業づくりの工夫について、各研究員が互いに学ぶことができた。
また、研究1年次である、柴橋小学校、白岩小学校、陵東中学校の3校が、子どもたちの確かな学力の育成に向けて研究を進めてきた。
- 2 今年度の全体講演会では、教育のための科学研究所 上席研究員 目黒朋子先生より、『RST結果分析と読解力を育むための授業づくり』という演題で講演をいただいた。市内中学校において実施されたリーディングスキルテスト結果を基に、本市の子どもたちの「読解力」の現状を分析し、リーディングスキルを活用した授業づくりについて分かりやすく話していただいた。教師が「解像度」高く教科書を読むことの必要性や共書き、リーディングスキルノートなど、具体的な実践事例を紹介いただき、実りのある講演会となった。
- 3 研修部会では、所員の指導力向上及び資質向上を図るため、中学校区ごとに小中学校の教職員が集い、「授業改善・確かな学力の向上」について話し合うことで、その解決の方向性について深めることができた。また、課題研究部会においては、「読解力（汎用的な資質・能力）の育成について」をテーマに、リーディングスキルへの理解を深めるための講義・演習や各校における読解力を育むための授業実践について交流し、充実した研修を進めることができた。
- 4 学力対策委員から、各校のアクションプランを提出していただき、学力対策について共有することができた。特に、自立した学習者の育成を踏まえ、「ICTを活用した新しい学び方」について研修を重ね、各校での指導改善に役立てようとしているところである。

《来年度の課題と思われること》

- 1 市教育研究所と各研修部会、各校における学校研究との一体的な研究推進に向けて
今年度も各部会・各校のテーマに基づいて所員による研究・実践を積み重ねることができた。その一方で、それぞれが個別の研究となり、研究内容の波及やその深化において課題が残った。今後はより組織的・継続的な実践研究を進めるため、学力対策委員会や課題研究部会、中学校区ごとの研修部会、さらには各校での学校研究において、一体的な研究の推進が図られるよう工夫する必要がある。
- 2 「読解力（汎用的な資質・能力）」の育成に向けて
令和4年度より、児童生徒の「読解力（汎用的な資質・能力）」をテーマに課題研究部会の研究を進めてきた。来年度は、読解力を育むための授業実践を更に重ねるとともに、指導の成果による経年変化を捉えられるようにすることで、汎用的な資質・能力となる「読解力」を育成するための授業改善を進めていく。